



国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



飯綱高原にて行われた植樹祭



2011・国際森林年

ふるさとの森づくりを進めよう

(P4に関連記事)

主な項目	○管内各県との連携強化に向けた取り組みについて……………	P2
	○「教職員を対象とした森林・林業体験学習研修会」を開催……………	P3
	○長野オリンピックの森検証シンポジウムと震災復興祈念植樹祭……………	P4
	○風景紀行……………	P6

管内各県との連携強化に 向けた取り組みについて

「企画調整室・販売課」中部森林管理局における施策の検討や民有林・国有林を通じた一体的な林政を展開するため管内四県（長野県、愛知県、岐阜県、富山県）と調整の上、昨年九月に林政連絡会議を設置しました。第一回目となる会議を林業事業体育成協議会と併せて六月二十日から七月十五日にかけて各県それぞれで開催しました。

局からは、主に平成二十三年度事業概要や事業量、今後市町村森林整備計画の策定を支援する准フォレスター活動に対する考え方、林業事業体の育成等につ



長野林政協議会総合委員会（中部森林管理局）の様子



岐阜県林政連絡会議（岐阜県庁）の様子

て情報提供し、森林・林業の再生に向け、森林施業の共同団地化等による森林整備の推進、低コスト・高効率作業システムの普及、木材の安定供給といった民有林と国有林が一層連携するための取り組み等について意見交換しました。また、各県からも民有林施策の概要、重点取組事項、事業量等について情報提供がありました。

特に、准フォレスターの活動については、国有林のフィールドを使った准フォレスター研修が七月より始まったところですが、今後、県職員と森林管理局職員との連携のあり方が重要になります。このため、お互いの准フォレスターがそれぞれの経験を踏まえ、効果的かつ効果的

に活動するための方法について意見交換を行い、准フォレスター研修受講生間の意見交換を実施すること、今後も綿密に意見交換を進めていくことを確認したところでです。

また、木材の安定供給や野生鳥獣被害の防止など両者が積極的に協力することで一層の効果の発現が期待できる課題についても意見交換を行い、両者が協力していく必要性を確認しました。また、今後とも引き続き本連絡会議を通じて意見交換を行い、民有林・国有林の連携を進め、課題の共通認識を醸成しつつ、協力しながら様々な課題に取り組んでいくこととしています。

第五十回高山植物等保護対策 協議会総会を開催

「国有林野管理課」七月十一日、中部森林管理局大会議室において、平成二十三年度「高山植物等保護対策協議会」（高植協）の総会を開催しました。

高植協は、長野県内の国有林並びに民有林における高山植物等の保護と地域内の美化を目的に、中部森林管理局、環境省、長野県の行政機関や報道、交通、教育、観光、山岳等の関係団体で構成されています。

総会には、長野県山岳協会や長野県自然保護連盟など二十八名が出席し、副会



総会の様子

長である環境省長野自然環境事務所長の挨拶に続き、平成二十二年度事業、会計の報告及び平成二十三年度事業計画、予算案などが審議されました。

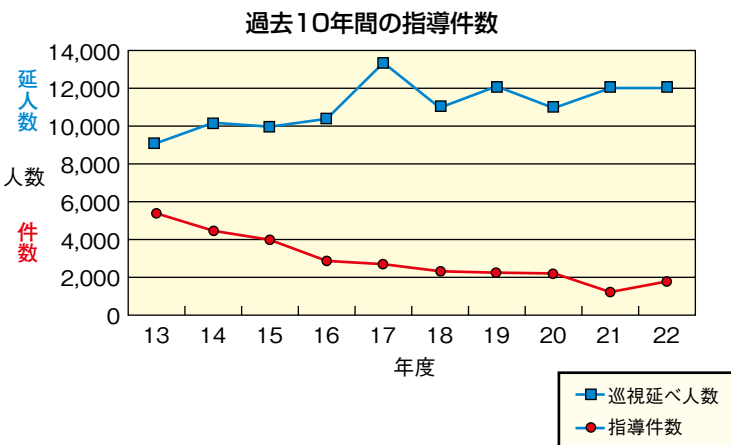
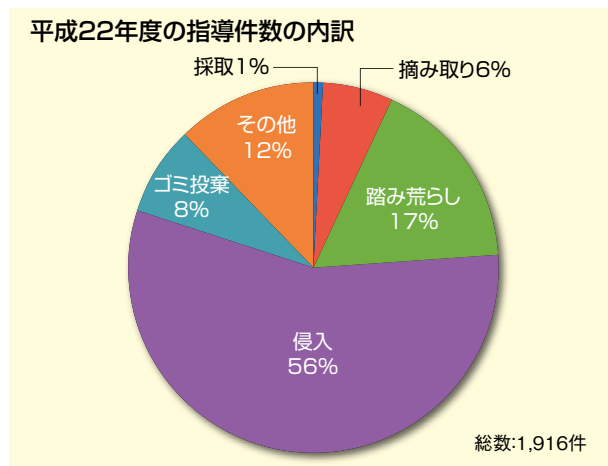
長野県内五地区の協議会からの報告では、平成二十二年度の国立公園等への入り込み者数は前年比二二三割の二十三万六千人でした。違反に対する指導件数は、高山植物無許可採取、摘み取り、踏み荒らし等、一九一六件と前年比一三三割で、減少傾向で推移してきた最近十年では初めての増加となりました。これは、入り込み者の増加もありますが、近年登山初心者が増えた結果、登山の基本的ルールやマナーの不知による立入禁止区域への侵入が増加したことが大きな要因となっています。

(3) 平成 23 年 8 月

- 三 ペット持ち込みの自粛推進
- 四 ゴミの不法投棄防止
- 一 植物の盗採、採取防止
- 二 踏み荒らし、立入禁止区域への侵入防止

また、外国人登山者によるペットの持ち込みが増えており、指導員も対応に苦慮しているとの報告もあり、今後は外国人登山者に対する効果的な保護啓発活動を実施していきます。

さらには、南アルプスをはじめ各地においてニホンジカ、イノシシ、ニホンザルによる食害が問題になっており、関係機関による有効的な防止対策の取り組みが行われるよう引き続き働きかけていきます。



- 五 野生獣による高山植物の食害防止
- 六 登山初心者へのマナー等の徹底が上げられました。
- 審議の中で、トレイルランニングに対する登山道の荒廃を懸念する意見及び、保護思想の高揚のためのポスターをもっと多様化して活用すべきとの意見が出され、次年度の事業計画へ反映させることとしました。
- 高植協の平成二十三年度の事業計画
- 一 高山植物等の保護思想の高揚
- 二 高山帯へのペットの持ち込み自粛への指導



植物の名前や特徴の説明に耳を傾ける教職員

この研修会は、児童・生徒に森林環境教育の普及を図るため、生徒を教える先生に森林・林業への理解を深めてもらうことを目的に、長野県と共催して実施された。

- 三 保護パトロール強化及び強化週間の実施
- 四 野生獣による植物の食害対策の実施等を目標に、あらゆる機会や場所での積極的な保護活動を進めていくことが承認されました。

管内各地域において

「教職員を対象とした森林・林業体験学習研修会」を開催

「指導普及課」

「木曽森林環境保全ふれあいセンター」

八月二日、木曽郡内の小中学校の教職員を対象とした森林・林業体験学習研修会が、阿寺国有林及び伝統木工製品の製作工房を訪ねて行われました。



間伐の必要性を説明

れたものです。

午前中は、八校から参加した十名の先生が、自らも小中学校の教師を勤め、長野県植物研究会々員でもある楯先生の案内により、阿寺溪谷の植物の名前や特徴の説明を受けました。その後、間伐実行後の造林地に移動して間伐の必要性、間伐後の林地の変化についての説明を受けました。

午後には、大桑村で神社仏閣の屋根修復材を製作している木工会社を訪ね、木曾で生産された木材が、貴重な文化財の修復に欠かせないことや、技術者育成の重要性を社長さんから聞かされ感心していました。

さらに上松町内の網代製作工房を訪ねて、木曾で育った天然のネズコを極限まで薄く剥き、壁板や天井板に組み上げる



へぎ板職人の技に感動



剥ぎの技術と製品の芸術性に感動して
ました。
木曾で生産されている木材が、文化財
等の維持に重要な役割と技術の継承に役
立っていることに誇りを感じるもので
す。
参加者からのアンケートには「木曾の
自然の豊かさを子ども達に伝えると共
に、社会科や総合学習に生かしていきた
い。」との意見が寄せられました。

一日目のシンポジウムは、長野市若里
市民文化ホールにおいて、阿部長野県知
事が長野県の森林の状況や整備状況、森
林税などについての時事講演の後、長年
ふるさとの森づくりを進めている宮脇昭
氏が、「人類の未来とふるさとの森づく
り」をテーマに四十年前からふるさとの

「指導普及課」八月十四日(日)から
十五日(月)にかけて、長野オリンピック
の森検証シンポジウムと震災復興祈念
植樹祭が長野ふるさとの森づくり実行委
員会(NPO法人国際ふるさとの森づく
り協会、中部森林管理局ほか)の主催に
より開催されました。

**長野オリンピックの
森検証シンポジウムと
震災復興祈念植樹祭**



屋根葺き材のこけら製作



一日目のシンポジウムの様子 パネラーとして城土局長も参加



森づくりを進めてきた経験と実績、東日
本大震災の復興における緑の防波堤構想
などについて基調講演がありました。
パネルディスカッションでは、斗ヶ沢
毎日新聞社水と緑の地球環境本部長が
コーディネーターとなり、宮脇横浜国立
大学名誉教授、阿部長野県知事、塚田前
長野市長、柳沢さりえ作家、城土局長の
五名により、それぞれの立場から森づく
りに対する構想や意見を交換しました。
なお、このシンポジウムには、お盆の
十四日の日曜日であるにもかかわらず、

この湿原は南信地方北部の伊那市と富
士見町の境に位置し、サギスゲやモウセ
ンゴケなど高層湿原に特徴的な植物やオ
キナスギコケなどの希少なコケが自生し
ていることから、多くの市民が訪れてい
ます。
作業開始に当たり、竹内署長から大阿

「南信署」長野県南箕輪村に所在する上
伊那農業高等学校2年生による大阿原湿
原の遊歩道整備が八月三日に実施されま
した。

各地からのたより

貴重な自然を守ろう！
高校生と湿原の木道整備

百七十名を超える参加者がありました。
二日目は、長野オリンピック当時混
植・密植型植樹植林(宮脇方式)された
森の姿をエムウエーブ、地附山、飯綱ス
キー場などで確認した後、震災復興を祈
念して飯綱高原大座法師池の区有林内で
ブナ、ミズナラなどの広葉樹一千本を植
樹し終了しました。



ブナ、ミズナラを
植樹する参加者

原湿原の貴重な自然や本活動の歴史について説明の後、森林ふれあい係長から高層湿原の形成過程や特徴などを説明しました。特に高層湿原の水が酸性を示すという特徴については、実際に pH 指示薬を使い湿原の水と水道水を調べさせることにより pH の違いを実体験してもらいました。

作業は生徒三十八名を七班に分け、それぞれに当職員が指導に当たるといって、老朽化した木道の板・枕木、グリーンロープの杭の付け替えや、露出した樹木の根を保護する目的で歩道にウッドチップの敷設を行いました。

時折小雨が降る悪条件の中、生徒達は慣れない手つきで、板の取り外し・付け替え等に苦勞をしていましたが、指導者の助言をよく聞き、真剣な表情で作業に取り組んでいました。また、作業中でも観光で来た一般の人達に元氣よく挨拶をしたり、道を開ける様子も見られ、一般の人の中には高校生に「綺麗にしてくれ



大阿原湿原の自然について
高校生に語る竹内署長



職員の指導の下、木道の整備を実施

てありがとう」と声をかけていく人もいました。

二時間半ほどで作業は終了し、真新しく修理された木道に達成感を感じている生徒も多く見受けられ、作業終了後、生徒の代表者から「自然を守るといふ貴重な体験ができて良かった」との感想が述べられました。

現地は、ニホンジカやイノシシのような野生動物による踏圧や食害が目立つようになってきています。今後、貴重な湿性遷移や現存する植物を保護するためにも、野生動物を対象にした対策も必要と考えています。

人のうごき

中部森林管理局人事

八月一日付

▽森林整備部治山課保安林係長（東信署総務課総務係長）

吉越 秀一
▽東信森林管理署総務課総務係長（森林総合研修所経営研修課実施係長）
山田 雅子

▽岐阜森林管理署総務課総務係長（東濃署総務課総務係長）
村井 千秋
▽職務復帰（育児休業終了）東濃森林管理署総務課総務係長（東濃署業務第二課付）
伊藤 章代

シリーズ 現場最前線

高山植物の保護・啓発活動も実施

「南信森林管理署駒ヶ根森林事務所」

駒ヶ根森林事務所は、天竜川西側の黒川、赤穂、中田切、飯島、上片桐、大島山国有林、東側に四徳国有林を管轄区域とし、西側には将棋頭（二七三〇㍎）を北端とし駒ヶ岳（二九五六㍎）、空木岳（二八六四㍎）を経て本高森山（一八九〇㍎）が連なり、全国的には中央アルプス駒ヶ岳として有名であり、駒ヶ岳、空木岳は日本百名山に数えられ、多くの登山客に愛されており。

当所は森林官と基幹作業職員一名で、境界巡検などの森林保全管理業務を中心に事業を実行しており、夏山の最盛期にはグリーンサポータースタッフ等と連携し

ながら、高山植物の保護・啓発活動も実施しています。

現場作業にあたっては、まず、一週間の行動計画を次長に報告し、毎日の行動計画は総務課長に、その都度きめ細かに報告するとともに、毎朝、森林官とその日の天候や作業内容に応じた段取りや安全作業の確認等のミーティングを行い基本動作の遵守、不安全行動の排除等を念頭に必要な作業を正しい手順で実行するように心がけています。

これから、保育間伐活用型等事業の最盛期を迎えますが、南信森林管理署として地域の皆様に、目に見える形で森林整備をはじめとした業務が理解されるよう、更に努力していきたいと考えています。



高植協との合同パトロール風景



蘭桧笠・南木曾ろくろ細工

長野県木曾谷の南部に位置する木曾郡南木曾町と下伊那郡阿智村を結ぶ国道二五六号線沿いに伝統技術を受け継ぐ里(蘭桧笠・南木曾ろくろ細工)があります。



伝統技術を継承する桧笠

蘭桧笠は、寛文二年(一六六二年)飛

驛の落辺から来た人によって伝えられ、耕地の少ない蘭では瞬く間に主要産業になりました。



南木曾ろくろ細工

桧笠は、桧の節の少ない上質な部分を薄く削って細長い短冊状にしたもので編まれており、すぐれた伝統技法により、美しい編み目と通風性・防水性を兼ね備え、木曾の自然と素朴な生活風土が巧みに活かされ、昭和五十七年には「長野県伝統工芸品」に指定されました。

また、ろくろ細工は、厚い板や丸太をろくろで回転させながらカンナで挽いて形を削り出す伝統技術です。

南木曾ろくろ細工の起源は明らかではありませんが、宝永元年(一七〇四年)から享保十三年(一七二八年)の間において、木地師が運上金を納め、盆、椀などの木地荷物を名古屋、大阪方面へ輸出していたことが古文書に記されており、江戸時代中期には白木の挽き物がこの地方

で生産されていたことが窺われます。

南木曾ろくろ細工は、「伝統的工芸品産業振興に関する法律」に基づき、伝統的工芸品の指定要件を満たし、昭和五十五年に国の伝統的工芸品に指定されました。

この国道二五六号線沿いは木工業が盛んな地から「工芸街道」とも言われ、南蘭国有林は工芸街道の背景林となっています。

木地師の里から分かれて、飯田市に向かう大平街道には旧東山道の大平宿があり、当時は妻籠宿から飯田方面へ往来が盛んだったことが窺われます。

現在は、主要地方道飯田南木曾線になっており、大平峠周辺の国有林は、自然探勝、憩いの場として、レクリエーションの森(大平峠風致探勝林六〇ヶヶ)



「木地師の里」と背景の南蘭国有林



南木曾町と飯田市の境となる大平峠

に指定され、多くの人達が訪れています。

◆アクセス

(所在地)

長野県木曾郡南木曾町吾妻

○車でお越しの場合

中央自動車道 中津川ICから南木曾町方面へ国道一九号線を北へ三十分～三十五分

長野自動車道 塩尻ICから南木曾町方面へ国道一九号線を南へ二時間

○公共交通機関をご利用の場合

JR中央西線南木曾駅下車バスまたはタクシード十五分～二十分
国道一九号線から妻籠宿を経由して五分で「桧笠の家」、十五分程で「木地師の里」に到着です。